

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

社会で活躍できる人間の育成を通して、地域から信頼される学校をめざします。具体的には、次の3点に取り組みます。

【1】確かな学力の育成と進路実現を支援する学校づくり 【2】安全で安心な魅力ある学校づくり 【3】地域と連携して生徒を育てる学校づくり

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路実現の支援

(1) 教員の授業力向上

ア 校内での教員間授業見学や法定研修の機会等を活用した研究授業の実施、枚方市内中学校の公開授業や外部機関での研修等への参加により、教員個々の授業改善を図る。

イ 生徒の入学時の学力、および在学中の学力推移を把握したうえで、有効な指導体制と指導方法を検討・実施する。

ウ 観点別学習評価の実施体制の整備(各教科・科目における評価基準・規準の設定、評価方法の検討など)

エ 生徒1人1台端末を授業等で有効活用する方法の検討

※生徒授業アンケートの①「授業内容に興味・関心を持つことができた(興味関心)」と②「授業を受けて知識や技能が身に付いた(知識技能)」の回答ポイント(満点4.0)の学校平均(H30:①3.15・②3.17→R1:①3.14・②3.18→R2:①3.14・②3.18)⇒①3.25・②3.28(5年度、年2回実施の平均値)

※学校教育自己診断(以下、自己診断)生徒対象「教え方を工夫している先生が多い」の肯定的評価(H30:64%→R1:63%→R2:72%)⇒77%(5年度、以下同じ)

※自己診断保護者対象「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」の肯定的評価(H30:45%→R1:44%→R2:55%)⇒60%

(2) 生徒の進路実現の支援

ア 生徒の希望する進路の実現に向け、各種説明会・ガイダンス、面談・面接、補習・講習などの実施により、生徒への支援を充実させる。

イ 3年間を見通したキャリア教育を計画・展開する

※自己診断生徒対象「進路に必要な情報や考え方をきちんと伝えてくれる」の肯定的評価(H30:76%→R1:75%→R2:82%)⇒87%

※自己診断保護者対象「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定的評価(H30:75%→R1:74%→R2:79%)⇒84%

※自己診断教職員対象①「生徒一人ひとりの興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」、②「生徒が望ましい勤労観・職業観を持てるよう系統的なキャリア教育を行っている」の肯定的評価を①(H30:75%→R1:69%→R2:80%)⇒85%、②(H30:48%→R1:36%→R2:53%)⇒60%

2 安全で安心な魅力ある学校づくり

(1) 各種学校行事、HR 活動、生徒会活動、部活動等の生徒自治活動の活性化と、自主的に規律ある学校生活を送る意識を高める指導を共に進めることで、生徒の自尊感情や自立心を育成する。

ア 新入生対象の「フレッシュマンキャンプ」、生徒会主催のボランティア活動、各種地域連携活動、部活動など、生徒の自主活動を促進する。

イ 「学校生活協議会(わくわく委員会)」の定期的実施等を通して、よりよい学校生活の実現をめざして、生徒が教職員・PTA・同窓会と連携して主体的に参加、行動する取組みを進めることで、生徒の主体性や協調性を育む。

※自己診断生徒対象①「生徒会活動は活発である」、②「学校は部活動に積極的に取り組んでいる」、③「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定的評価を、①(H30:57%→R1:61%→R2:68%)⇒75%、②(H30:69%→R1:68%→R2:76%)⇒80%、③(H30:53%→R1:45%→R2:52%)⇒60%

※自己診断保護者対象①「部活動は活発である」、②「学校の生徒指導の方針に共感できる」の肯定的評価を、①(H30:70%→R1:61%→R2:69%)⇒75%
②(H30:65%→R1:59%→R2:65%)⇒70%

※自己診断教職員対象「生徒指導において家庭との連携ができてきている」の肯定的評価(H30:80%→R1:82%→R2:80%)⇒85%

※生徒の年間登校遅刻回数(H30:760回→R1:728回→R2:630回)⇒600回未満

(2) 教育相談・支援教育体制の充実

ア さまざまな困り感を抱える生徒の早期発見と早期対応につながる、きめこまやかな教育相談・支援教育の体制を構築する。

イ 様々な事象に対する円滑かつ確実な対応ができるよう、校内組織に加え、スクールカウンセラー(SC)、学校医、各関係機関等との連携を進める。

※自己診断生徒対象「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価(H30:70%→R1:65%→R2:75%)⇒80%

※自己診断保護者項目「子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる」の肯定的評価(H30:64%→R1:65%→R2:73%)⇒80%

(3) 人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。

※自己診断生徒対象「人権の尊重について学ぶ機会がある」の肯定的評価(H30:70%→R1:65%→R2:75%)⇒80%

※自己診断保護者項目「学校は子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている」の肯定的評価(H30:64%→R1:65%→R2:73%)⇒80%

(4) 校内防災体制の整備充実

※自己診断生徒対象「学校で事件・地震や火災等があった場合にどう行動したらよいか知らされている」の肯定的評価(H30:80%→R1:65%→R2:64%)⇒80%

※自己診断保護者対象「地震や台風等の場合の行動マニュアルが子どもや保護者に知らされている」の肯定的評価(H30:85%→R1:67%→R2:72%)⇒85%

3 地域と連携して生徒を育てる学校

(1) 枚方市内中学校を中心に、本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。

ア 学校説明会の実施形態を一層工夫することで、中学生・保護者の参加人数を増やす。

イ 本校教職員の定期的な中学校訪問、部活動での交流、出前授業・学校紹介の実施、相互の授業見学等を実施する。

ウ 本校ホームページ内容充実と、各種 SNS メディアを通じた情報発信の頻度を増やす。

※一般選抜における本校志願者が募集定員(240名)を下回らない(H30:248名→R1:204名→R2:227名)⇒240名以上(各年度)

(2) 自治体、地域自治組織、大学、近隣の保育所・幼稚園・小学校・福祉施設等との連携を深める

ア フレッシュマンキャンプにより、大学からの学生派遣による高大連携、および学校説明会参加中学校との連携を一層推進する。

イ 本校学校行事(体育祭・文化祭等)への招待と、地域施設の見学や各種地域行事へ本校生徒・教職員が参加することで、交流と相互理解を促進する。

※自己診断生徒対象「授業、部活動、学校行事等を通し、地域の人々や他の学校と交流する機会がある」の肯定的評価(H30:51%→R1:49%→R2:48%)⇒60%

4 教職員の働き方改革推進

(1) すべての教職員が、担当業務についての必要性と効率化を常に意識する習慣を持つことを全校的に推進する。

※教員一人平均の月当たり時間外勤務時間(H30:35時間20分→R1:36時間30分→R2:31時間33分)⇒25時間(5年度)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1、生徒向け診断について</p> <p>(1) 診断 25 項目のうち、肯定的評価(「よくはてはまる」と「ややあてはまる」)を合計した今年度の数値(%)についての経年比較から、次の2つに分類する。</p> <p>(A) 昨年と一昨年を共に上回る(数値が同じ場合を含む)・23 項目</p> <p>(B) 昨年を下回る・2項目</p> <p>(A)が全体の 92%を占めることから、診断結果全体としては良好と考える。以下に、(A)・(B)について分析する。</p> <p>(2) Aに分類される 23 項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11 項目について、肯定的評価が昨年度より 10%以上増えている。 ・肯定的評価が 50%未満の「学校のHPをよく見る」(昨年 30%・今年 38%)については、1人1台端末の活用と合わせて次年度以降に対応する。 <p>(3) Bに分類される 2 項目について</p> <p>① 学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている (一昨年 65%・昨年 64%・今年 61%)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 年連続でコロナ対応により避難訓練未実施の影響とも考えられるが、オンライン活用等も含めて生徒への情報周知方法を検討する。 <p>② 他の先生が授業を見学に来ることがある (昨年 76%・今年 74%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で教室での授業見学を控えた影響と思われる。次年度以降はオンラインの活用等も含めた授業見学を考える。 <p>2、保護者向け診断について</p> <p>(1) 診断 25 項目のうち、肯定的評価(「よくはてはまる」と「ややあてはまる」)を合計した今年度の数値(%)についての経年比較から、次の3つに分類する。</p> <p>(A) 昨年・一昨年を共に下回る・2 項目</p> <p>(B) 昨年を下回るが一昨年を上回る・7 項目 (C) 昨年を上回る・16 項目</p> <p>(C)は全体の 64%であるが、昨年度の 84%より低下している。以下に、上記の(A)・(B)に当たる項目について分析する。</p> <p>(2) Aに分類される 2 項目について</p> <p>① この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある(一昨年 72%・昨年 64%・今年 49%)。</p> <p>② PTA活動については活発である(一昨年 56%・昨年 56%・今年 48%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも2年続けてコロナの影響が大きいと思われる。次年度以降はオンラインの活用等も含め参加方法を検討する。 <p>(3) Bに分類される 7 項目について</p> <p>① 地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に行動マニュアルが知らされている。(一昨年 67%・昨年 72%・今年 68%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け診断の(3)①と関連する。今年度に防災マニュアルの見直しは実施したので、次年度は避難訓練実施方法や地域との連携を進める。 <p>② 子どもが学校へ行くのを楽しみにしている(一昨年 75%・昨年 81%・今年 75%)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる不安や学校生活での制約等の影響を精査する。参考に生徒向け診断項目「学校に行くのが楽しい」の肯定的評価は、一昨年 66%・昨年 73%・今年 77%である。 <p>③ 先生は子どものまがった行動を厳しく指導してくれる(一昨年 77%・昨年 84%・今年 79%)。</p> <p>④ 子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる(一昨年 65%・昨年 73%・今年 68%)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で対面での保護者懇談等の機会が減ったことも一因と考えられる。次年度はオンラインの活用等も含め、保護者の考えや思いをより正確に把握することに努める。 <p>⑤ 文化祭や体育祭・宿泊行事などの学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている。(一昨年 80%・昨年 86%・今年 82%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度はコロナの影響下でも文化祭・体育祭とも開催できたが、今年度は修学旅行の中止や文化祭・体育祭の日程変更・規模縮小等の影響があったと思われる。次年度は時期や形態を工夫してすべて開催できるよう努める。 <p>⑥ 学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている(一昨年 65%・昨年 76%・今年 69%)。</p> <p>⑦ 学校のホームページをよく見る(一昨年 35%・昨年 52%・今年 50%)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡方法について、電話、紙媒体、学校連絡メール、ホームページ等、利用可能なすべてのツールをフル活用することを徹底する。 <p>3、教員向け診断について</p> <p>(1) 診断 39 項目のうち、肯定的評価(「よくはてはまる」と「ややあてはまる」)を合計した今年度の数値(%)についての経年比較から、次の2つに分類する。</p> <p>(A) 昨年と一昨年を共に上回る・32 項目(昨年度は 31 項目)</p> <p>(B) 昨年を下回るが一昨年を上回る・7 項目</p> <p>(A)が全体の 82%を占め、昨年度より増加していることから、診断結果全体としては良好と考える。以下に、上記(B)に当たる項目について分析する。</p> <p>(2) Bに分類される 7 項目について</p> <p>① 校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている(一昨年 62%・昨年 60%・今年 59%)。</p> <p>② 初任者等、経験年数の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。(一昨年 39%・昨年 75%・今年 56%)</p> <p>③ 各年度の教育計画の作成に当たって、教職員で話し合っている。(一昨年 59%・昨年 73%・今年 71%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応を優先した学校運営により、年間を通した各種計画策定や実施が困難だった面は否めない。次年度は、コロナ対応を織り込んだ各種年間計画を作成、提示する。 <p>④ この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。(一昨年 59%・昨年 70%・今年 69%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け分析(3)④も踏まえ、次年度は教育相談関連の教員研修の実施等に取り組む。 	<p>【第1回 7月30日】(書面開催)</p> <p>(1) 令和3年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度実績や学校課題を踏まえた計画として具体性が感じられる。教職員一人ひとりの設定目標とリンクさせて、実効性ある取り組みを展開し、学校目標を達成していただきたい。 ・校内防災体制の整備充実について進めていただきたい。コロナ影響がいまだ続いている状況だが、こういう時こそ色々な面で更に進化する良いチャンスだと捉えて取り組んでほしい。 ・コロナで活動の制約があるが、まずは感染しない安心、安全な学習環境に留意してほしい。 <p>(2) 令和3年度学校広報について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係中学校の状況、昨年度実績と振り返りに関する資料から、しっかりPDCAサイクルを回していることが理解できる。 ・コロナ禍の下で制約が多く大変だが、確かな情報を伝えて選択肢を提供することは、学校側はもちろん、中学生にも大切なことであるとの視点からもよろしくお願ひしたい。 ・中学生や保護者が広報の直接対象だが、中学校の進路指導担当・3年担任団の先生方、さらに学習塾等の関係者とも、顔が見えるくらいの関係を日頃から築けるようにすれば良い。 <p>(3) 長尾高校通信(第11号)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とてもいいものであり、中学生に見てもらえるのはよい。中学校の先生方にも知ってもらいた。 ・昨年度の体育祭がテレビニュースで放映されていた。また、この3月に長尾高校が枚方市のボランティア表彰を受けていた。長尾高校の活動がもっと多くの方々の目に留まり、伝わるように、様々な情報発信されることを期待している。 <p>【第2回 11月5日】</p> <p>1、生徒1人1台端末(タブレット)の導入について(生徒が持つ端末を委員に配布し、実際の使い方をデモンストレーションしながら説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの維持管理には教員側の多くの労力が必要と思われる。 ・家庭での使用について、SNSのモラルや健康をを守るようなルール作りが必要ではないか。 <p>2、長尾祭について(11/20(土)実施予定の地域連携行事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を深める良い企画であり、中学生に対する広報効果も大きいと思われる。実現に向けて協議会としても協力したい。 ・次年度以降も継続すればよいと思う(委員複数の意見)。 <p>3、広報関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度夏に同窓会、PTA、後援会から支援を受けてリニューアルした食堂や図書館を、積極的にアピールして、志願者の獲得に結びつけるようにお願ひしたい。 ・中学生対象の学校説明会の回数を増やすことはできないか(→校内で検討する) <p>4、コロナの状況ではあるが、生徒が主体的に係ることができるといふ行事や取り組みを、意識して増やしてもらいたい。</p> <p>【第3回 令和4年2月28日】(書面開催)</p> <p>1、令和3年度学校教育自己診断結果及び学校経営計画学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断結果は、全般的にポイントが上昇しており、先生方の取り組みの結果が出ているものと思います。 ・特に、生徒の評価については大多数の項目で上昇し、なおかつ大幅に上昇したものが多く素晴らしい結果である。コロナ禍においても、教職員が生徒たちに様々な働きかけ、生徒を巻き込んで取り組みを展開した努力に敬意を表す。 ・危機管理や防災防犯に関する評価が、他の項目に比べて低いのが気になる。原因の究明と、次年度は是非とも本格的な防災訓練活動の実施が必要である。 ・生徒、保護者、教職員の評価でギャップがある項目である、「学校の特色」「生徒指導」「ホームページ活用」について、検討と対応を今後進めてもらいたい。

<p>⑤この学校では清掃がいきとどいている(一昨年 39%・昨年 55%・今年 50%)。 ・清掃指導体制の再検討を行う。</p> <p>⑥教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。(一昨年 72%・昨年 85%・今年 81%)</p> <p>・保護者向け分析(3)⑥⑦も踏まえ、連絡体制の充実に努める。</p> <p>⑦教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある (一昨年 33%・昨年 75%・今年 72%)。</p> <p>・昨年度大きく改善した項目であるが、教員定数減・働き方改革の推進による業務の見直しと、教職員の同僚性の向上に努める。</p>	<p>2、令和4年度学校経営計画について</p> <p>・特に問題なく承認いたします(全員)</p> <p>・中期目標における数値目標の設定や修正について、今年度の結果を踏まえ、原因の分析に基づいた合理性、妥当性のある目標設定をしたうえで、上方修正や下方修正することを、今後お願いする。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 【学校教育自己診断＝診断と表記】[R2年度値]	自己評価
<p>1 確かな学力の育成と進路実現の支援</p>	<p>(1)教員の授業力向上 ア 教員個々の授業改善 イ 生徒の学力把握に基づく指導 ウ 観点別学習評価の実施体制整備 エ 生徒1人1台端末の活用体制検討</p> <p>(2)生徒の進路実現支援 ア 生徒の希望する進路実現への支援を実施 イ 3年間を見通したキャリア教育の計画・展開</p>	<p>(1)ア・校内の授業見学、研究授業の実施 ・校外の公開授業や研修等への参加 イ・年度当初に実施する基礎学力調査の結果を分析し、特に到達度の低い生徒への組織的な指導方法を検討・実施 ウ・教務部と教科主任を中心に、評価基準・規準の設定、評価方法の検討、研修等を実施 エ・校内 ICT 環境、図書室の整備 ・端末活用法の研修、先行的研究授業研修の実施</p> <p>(2)ア・各学年で必要な時期に、各種説明会・ガイダンス、面談・面接、補習・講習などを実施する。 イ・「総合的な探究の時間」や「自己探究(学校設定科目)を活用したキャリア教育の企画実施。 ・進路学習室の整備と活用 ・生徒が各種資格取得(英語、情報、数学、漢字、ニュース検定等)めざすことで進路意識の向上を図る。</p>	<p>(1)・【生徒授業アンケート】①興味関心・②知識技能、の回答ポイント学校平均を前年度より上げる[①3.14・②3.18]</p> <p>・【診断】(生徒)「教え方を工夫している先生が多い」の肯定率 75%[72%]、(保護者)「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」の肯定率 57%[55%]</p> <p>ア・授業見学実施、関係研修等へ参加(共に年1回以上)</p> <p>イ・分析会と指導方法検討会議の開催と指導の開始 ウ・関係する委員会の継続的開催、校内研修の実施 エ・年間1回以上の研修・研究授業の実施</p> <p>(2)・【診断】(生徒)「進路に必要な情報や考え方をきちんと伝えてくれる」の肯定率 85%[82%]。(保護者)「進路や職業への適切な指導を行っている」の肯定率 82%[79%]、 (教職員)①「進路についてきめ細かい指導を行っている」・②「系統的なキャリア教育を行っている」の肯定率を ①82%[80%]・②56%[53%]</p> <p>・各種検定試験の受検者数を前年より増やす。英検準2級以上[45名]、情報[5名]、数研[19名]。</p>	<p>(1)・【生徒授業アンケート】 ①3.21②3.27で向上。(○)</p> <p>・【診断】(生徒)82%、(保護者)57%で向上。(◎)</p> <p>ア・校外のタブレット活用授業見学と研修に参加(○)</p> <p>イ・分析に基づき定期的な補習と学習会を実施(○)</p> <p>ウ・毎週の教科主任会議、3回の校内研修実施(○)</p> <p>エ・ICT推進委員会を立ち上げ、研修を3回実施。図書室も同窓会とPTAの援助でリニューアル実施(◎)</p> <p>(2)・【診断】(生徒)88%(○)、(保護者)83%(○)、(教職員)①81%(△)・②71%(◎)</p> <p>・検定試験受検者数(◎) 英検 63名、数検 30名、 ワープロ・情報関連 62名</p> <p>・今年度大阪府生徒研究発表会で本校生徒が銀賞を受賞した。今後も対外的研究発表への参加を増やす。 ・総合的な探究の時間に、「演劇指導」「ヒブリアトル」を継続的に実施し、コミュニケーション能力育成を図った。次年度以降も継続実施したい。</p>

府立長尾高等学校

<p>2 安全で安心な魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒自治活動の活性化と、自主的に規律ある学校生活を送る意識を高める指導を共に進め、生徒の自尊心や自立心を育成</p> <p>(2) 教育相談・支援教育体制の充実 ア きめこまやかな教育相談・支援教育の体制構築。 イ SC、学校医、各関係機関等との連携。</p> <p>(3) 豊かな心や人権尊重の精神を育成する</p> <p>(4) 防災体制の整備充実</p> <p>(5) 登下校時の安全指導の強化</p>	<p>(1) ア・新入生対象の「フレッシュマンキャンプ」、生徒会主催のボランティア活動、各種地域連携活動、部活動など、生徒の自主活動を促進する。 ・部活動への加入を促進する イ・「学校生活協議会(わくわく委員会)」の定期的実施等を通して、よりよい学校生活の実現をめざして、生徒が教職員・PTA・同窓会と連携して主体的に参加、行動する取り組みを進めることで、生徒の主体性や協調性を育む。</p> <p>(2) ア・さまざまな困り感を抱える生徒が増えてきていることを踏まえた、早期発見と早期対応の体制 ・生徒理解を深める教職員研修の企画実施 イ・事象発生時に関係教職員によるケース会議を早期に実施し、必要な外部機関等への連絡協力依頼を図る。 ・SC、学校医等と管理職の連絡を通常から密にする。</p> <p>(3) ・3年間を見通した人権教育計画の作成 ・本校生徒間でトラブルの多い SNS 利用時の問題への対応</p> <p>(4) ・昨年度は新型コロナ対応の影響で十分ではなかった、防災体制周知や避難訓練、関連教職員研修等を充実させる。 ・防災計画の見直し、緊急時の連絡方法を明確にする。 ・校内安全に配慮した環境整備を進める ・教職員研修(救急法等)の企画実施 ・地域自治体と連携した防災体制の整備</p> <p>(5) ・本校教職員による校外立番を含む交通安全指導の実施 ・生徒対象の交通安全講習の実施 ・外部機関、警察、地域小中学校との連携による交通安全指導の実施</p>	<p>(1)・【診断】(生徒)①「生徒会活動は活発」・②「部活動に積極的に取り組んでいる」・③「先生の指導に納得できる」の肯定的評価を、①70%[68%]・②78%[76%]・③55%[52%]。(保護者)①「部活動は活発である」・②「生徒指導方針に共感できる」の肯定的評価を、①72%[69%]・②67%[65%]。(教職員)「生徒指導で家庭との連携ができています」の肯定的評価を 82%[80%]。 ・生徒の年間登校遅刻を昨年度以下にする[630 回] ア・フレッシュマンキャンプ継続実施の体制整備 ・部活動加入率 67%[63%] イ・わくわく委員会の年3回実施[1 回]</p> <p>(2)・【診断】(生徒)「悩みや相談に親身にに応じてくれる先生が多い」の肯定的評価 77%[75%]、(保護者)「子どもの心身の健康について気軽に相談できる」の肯定的評価 75%[73%] ア・年2回以上の教職員研修実施 イ・SC 来校時に管理職との面談を実施</p> <p>(3)・【診断】(生徒)「人権尊重について学ぶ機会がある」の肯定的評価 77%[75%]、(保護者)「子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている」の肯定的評価 75%[73%] ・人権教育推進委員会による年間人権教育計画策定 ・SNS 利用時の生徒人権学習の実施 ・年3回以上の教職員人権研修の実施[2 回]</p> <p>(4) 【診断】(生徒)「事件・地震や火災等の場合の行動が知らされている」の肯定的評価 70%[64%]、(保護者)「地震や台風等の場合の行動マニュアルが知らされている」の肯定的評価 75%[72%] ・グループウェアシステム等も活用した緊急連絡体制整備 ・校内安全点検の徹底と設備改修の実施 ・教職員研修の実施 ・地域防災訓練へ年1回以上参加[0 回]</p> <p>(5) ・教職員による年間2回以上(春秋)交通安全指導の実施[2 回・合計5 日間] ・年間1回の1年生対象交通安全講習の実施[1 回]</p>	<p>(1)・【診断】(生徒)①82%(◎)②84%(◎)③61%(◎)、(保護者)①69%(△)②65%(△)、(教職員)94%(◎)。保護者の理解を得ることが課題。 ・年間登校遅刻 624 回(○) ア・フレッシュマンキャンプは3 回実施、リーダー生徒への研修体制も整備された。(◎) ・部活動加入率 45%、コロナの影響で新入生への勧誘活動が2 年連続十分に実施できなかった。(△) イ・わくわく委員会はコロナの影響等で1 回のみ開催。他に同窓会との交流会を2 回実施し、部活動や校則に関する意見交換等を行った。(○)</p> <p>(2)・【診断】(生徒)84%(◎)、(保護者)68%(△)。コロナの影響で保護者懇談等の実施が難しかったが、今後はオンライン等の活用を進める。 ア・教職員研修は1 回実施(△) イ・SC と管理職の面談は毎回実施(○)</p> <p>(3)・【診断】(生徒)90%(◎)、(保護者)76%(○) ・次年度人権教育計画策定済 ・SNS 関連生徒人権学習2 回実施(○) ・教職員人権研修は1 回実施、次年度は開催形態等を工夫して実施する(△)</p> <p>(4) 【診断】(生徒)61%(△)、(保護者)68%(△)。コロナのため生徒が実際に行動する避難訓練は実施できていない。オンライン等も活用した訓練を企画。 ・緊急連絡体制は整備し、校内安全点検の徹底と設備改修、防災マニュアルの見直しは実施済み。(○) ・教職員研修は実施済み(○) ・地域防災訓練はコロナで中止(-)</p> <p>(5) ・年間2 回、延べ6 日間の交通安全指導を実施(○) ・交通安全講習はコロナのため未実施(-)</p>
<p>3 地域と連携して生徒を育てる学校</p>	<p>(1) 中学への広報活動を充実させ、本校志願者の確保に努める。</p> <p>(2) 自治体、地域自治組織、大学、近隣の保育所・幼稚園・小学校・福祉施設等との連携を深める</p>	<p>(1) ア・学校説明会の企画において、本校生徒が運営により多く関わる機会を増やす。 イ・枚方市内各中学校について担当教員を決めて、中学校訪問、電話連絡等を行う。 ウ・SNS、動画配信サービス等に本校公式ページを開設し、速報性重視の広報活動を展開する。</p> <p>(2) ア・フレッシュマンキャンプにおける本校ファシリテーター(新入生指導役)生徒の育成に関わる摂南大学との連携強化 ・フレッシュマンキャンプを学校説明会における参加中学生対象にも実施することで、中学生との連携を図る。 ・近隣大学との交流事業等を通じた連携推進 イ・本校学校行事(体育祭・文化祭等)へ地域の皆さんを招待する。 ・本校生徒と教職員が、地域施設の見学や各種地域連携行事(夏祭り、清掃活動等)へ参加する。</p>	<p>(1) ・一般選抜志願者 240 名以上[227 名] ア・参加者(中学生・保護者)の事後アンケート結果における満足度 90%以上。 イ・枚方市内各中学校について、年間2 回の学校訪問と電話連絡を実施。 ウ・各種メディアにおける本校公式ページの開設と運用の開始。</p> <p>(2) ・【診断】(生徒)「地域の人々や他の学校と交流する機会がある」の肯定的評価 53%[48%] ア・フレッシュマンキャンプに参加する本校ファシリテーター生徒の増加[33 名]、学校説明会で実施時の参加中学生の増加[84 名] ・近隣大学との交流事業への参加 イ・昨年度まで実施していた学校行事への地域招待を可能な限り実施する。 ・一昨年度まで実施されていた各種地域連携行事に、今年度は(実施されれば)可能な限り参加する。</p>	<p>(1) ・志願者 227 名で昨年と同じ(△) ア・すでに実施した2 回の事後アンケートの満足度平均は 90%以上(○)。 イ・枚方市内各中学校について、年間3 回の学校訪問実施済み(○)。 ウ・SNS と動画配信サービスで3 つの公式ページを開設・運用(○)。</p> <p>(2) ・【診断】(生徒)70%(◎) ア・ファシリテーター生徒 64 名(◎)、参加中学生 97 名(○) ・近隣大学との交流事業を3 回実施(○) イ・コロナの影響で学校行事への地域招待はできず、各種地域連携行事も全面的に中止された。(-) ・令和3 年 11 月 20 日に、本校主催の地域連携行事として「長尾祭」を開催し、3000 名以上の来校者があった。来年度以降も開催したい。(○)</p>
<p>働き方改革</p>	<p>(1) 担当業務の必要性と効率化への意識習慣を持つ</p>	<p>・ノー残業デー、ノークラブデーの推進 ・時間外労働時間の多い教職員に対する管理職からの声掛けと業務の確認</p>	<p>・教員一人平均の月当たり時間外勤務時間を昨年度より 10%減らす[31 時間 33 分→2 月末まで]</p>	<p>・2 月末までで 26 時間 16 分、前年度より約 17%減。(◎)</p>